

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成
----------	----------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

人権教育の一層の充実が求められているという現状、また、学校教育において、いかに人権教育の目標を達成するかを考えたとき、人権教育を通じて育てたい資質・能力をバランスよく育てることは喫緊の課題である。

本県では、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」や「鳥取県人権教育基本方針―第3次改訂―」に基づき、年度ごとに学校教育における人権教育推進のための重点を定め、市町村教育委員会や各学校と連携しながら人権教育を推進し、全県的に一体感のある取組となるよう努めている。

とりわけ、人権教育を通じて育てたい資質・能力については、県内すべての学校で「人権教育全体計画」の中に明確に位置づけ、学校としての組織的な取組を推進する体制が整えられている。しかし、それだけでは十分でなく、効果的に児童生徒の育成につながる取組の充実を図る必要がある。

そのためには、参加型をはじめとした指導方法の工夫を含め、各教科等と人権教育との関連を図る視点が欠かせない。また、「人権教育・啓発に関する基本計画」でも指摘されているように、普遍的な視点と個別的な視点の往還も大切であると考え。これらの視点を中心に、研究指定校における人権教育の取組の充実を図り、普及に努めることで、各学校の児童生徒の「生きる力」を育む基盤としての人権教育推進につなげていきたい。

○調査研究の概要

- ・児童生徒の発達段階に応じた効果的な学習教材の選定・開発、人権尊重の視点に立った授業づくりを行い、「育てたい資質・能力」の育成を図る。

- ・普遍的な視点と個別的な視点の往還を意識し、児童生徒が多面的・多角的に考え、主体的に学習に参加することができる授業づくりを行う。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

米子市立湊山中学校

○これまでの研究指定等の状況

特記事項なし

○学級数

14学級（うち特別支援学級：4学級）

○児童生徒数（R.6.1.1）

全生徒数：332名

○URL

<https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/minato-j/>

○指定理由

研究指定校では、「ふるさとで心豊かに学び、いきいきと活動する」生徒の育成を図るため、令和元年度より「生徒が主体的に他者とかかわり、考えを広げ深める授業づくり」の研究を進めている。「生徒同士が学び合う活動の推進」と「伝え合い、考えを深め探究する活動の推進」を研究の柱に据え、取組を実践してきた。ソーシャルスキルトレーニングである「すわまるタイム」という少人数での話し合い活動の他、授業では必ず「流れ」を示し、授業に対する不安感をなくす取組も行っている。さらに、生徒が主体的に他者とかかわり合い、考えを広げ深める授業を展開することで、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答する生徒の割合が高まるなど、多様性を尊重する態度やコミュニケーションスキル等の人権教育を通じて育てたい資質・能力において一定の成果を上げてきている。

研究指定校を含む湊山中学校区は、令和5年度に米子市中学校区人権教育研究発表会の開催を予定している。この研究を進めるにあたっては、本校区の児童生徒に「安心・安全な家庭・学校生活、自尊感情、人権感覚」について実態を把握するための自作人権アンケート（10年前に自校の実態を把握するために作成したもの）を活用し、10年間にわたる取組の成果と課題に基づいた研究を推進している。その成果と課題を分析すると、生徒の人権学習に対する前向きな姿勢や人権意識の向上がみられる一方で、一定の割合の生徒は「自尊感情」や「自己肯定感」の低い状態にある。そのため、本校区では、校区人権課題の根幹を「自尊感情・自己肯定感」とし、話し合い活動や授業、学校生活でのかかわり合いやその生活基盤となる環境づくりを通して、「自尊感情・自己肯

定感」を育成することを共通理解している。そして、校区研究主題を「かかわる つなげる ひろげる ～ともにつながり、高めあう、子どもの育成～」と設定し、就学前部会、学校教育部会、PTA 部会が三位一体となって人権教育を推進している。

校区研究指定校においては、ありのままの自分を認めることが自己肯定感であり、それらを含めて自分自身をどのように評価するかを自尊感情と定義し、学校教育全体を通じた人権教育に取り組んでいる。「自尊感情・自己肯定感の育成」を研究の柱に据え、人権教育研究主題を「自尊感情・自己肯定感を高め、豊かな人間関係を構築する」と定め、その実現に向けて「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」に示された「人権尊重の視点に立った学校づくり」を参考に5つの部会を立ち上げ、それぞれの部会が連携を図りながら研究を進めている。

このように、幼保小中にわたる系統的な取組やPTA、地域と連携した取組など様々なアプローチから研究を推進しており、研究指定校としてふさわしいと判断した。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

①子供	○
②女性	
③高齢者	
④障害者	○
⑤同和問題	◎
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	○
⑧-1 HIV 感染者等	
⑧-2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	○
⑭その他 (SDG s)	○

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

令和5年度全国学力・学習状況調査では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」90.1%（全国比+3.1）、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」83.2%（全国比+5.6）と、全国と比べて高い結果となった。しかし、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対しては、80.2%（全国比-1.6）というやや低い結果となった。また、全学年を対象に実施した自校独自の「人権と仲間に関するアンケート」（5月実施）では、「差別的な事象に出会ったときにそれを指摘できる（技能的側面）」で76%、「現存する人権課題に関心を持ち解決しようとしている（価値的・態度的側面）」で82%であった。「自分自身に関するアンケート」では、「今の自分が好きだ」で70%、「自分にはよいところがある」で76%、「自分は誰かの役に立つことができる」で75%という結果となり、肯定的に自己を捉えている回答が8割を切る結果となり、自尊感情に関わる部分で課題が見られた。

調査の結果から、人権を尊重することの大切さを理解したり、ものごとを考えたりすることの大切さは理解しているが、自己の考えを発信したり、それを実行に移したりすること、自他の持つ力を出し合って課題を解決し共に良くなろうとすることにおいては、消極的な生徒が多くいることがうかがえる。また、自分自身を肯定的に捉えられない生徒も少なからずいることが実態として浮き彫りになった。その背景として、自分自身の意見や考えへの自信のなさや、目の前の課題解決に向け見方・考え方を広げ協働的に解決策を見出していく経験、その中で自分が役に立ったという実感の少なさがあると考えた。こういった自尊感情は、すべての教育活動の中で育まれるべきであり、中でも最も多くの時間を費やす「授業での学習場面」を意図的に仕組んでいくことによって効果的に高めていくことができると考えた。

研究を進めるにあたって、校区の研究テーマである「かかわる つながる ひろげる」をキーワードとし、「協働的な学びの中で、思いを伝えたり受け止めたりすること」「多様な意見や考えにふれ、考えを広げたり深めたりする力を身につけること」「学びを振り返って自己の見方・考え方を広げ、身近にある課題解決に生かしたり、目標の実現に向けて努力できたりする力を身につけること」を目標とし研究を進めることにした。本校で継続して取り組んでいる「すわまるタイム」（話し合い活動）でのかかわりを基盤とした、人権尊重の視点・特別支援教育の視点からの学びの仲間づくり、学びと生活の結びつきや振り返りを大事にした、誰もが学びたくなる授業づくりを研究の2つの柱に設定した。生徒は、学習活動を通じて多様な感じ方・考え方に会い交流することで、自分の見方や考え方・感じ方を明確にし、より広く深く物事を考えることができるようになり、自他を大切にしながら自分の生き方を深く考えることができるようになった。また、学び合いを通じて課題解決の力を身につけることにより、地域など

身近にある課題に主体的に取り組むなど、自らの学びを生活に広げていくことが期待できると考え、目標に沿って3つの部会を組織し、以下の仮説のもと、研究実践を進めていくこととした。

①<研究仮説1>「受容的な人間関係づくり」についての視点

すわまるタイムや学習場面での学び合いなど、他とかかわる活動を多く設け、お互いを知り合うことによって、学級や集団に所属することへの安心感が生まれ、自己肯定感や自己有用感につながるだろう。自尊感情が育つことで、よりよい人間関係を自ら築こうとする生徒が育つだろう。

②<研究仮説2>「対話を通して考えを深化する学びづくり」についての視点

さまざまな学習場面で、他と交流し多様な考えにふれることで、自他を認め合う基盤がつくられ、思いを伝えたり受け止めたりすることができる力が育つだろう。また、新たな考えや学習に出会う喜びを感じることで、自ら学びとつながっていこうとする生徒が育つだろう。

③<研究仮説3>「学びを生活・生き方にひろげる学びの場づくり」についての視点

多様な意見や考えにふれ、思いを伝えたり受け止めたりする場面を日常化すること、また自らの学びを振り返って考えることにより、自己の見方・考え方を広げ、それを生活や身近にある課題解決に生かしたり、目標の実現に向けて努力できたりする力を持った生徒が育つだろう。

○実施方法

①「受容的な人間関係づくり」についての研究【かかわる部会】

落ち着いたのびのびと学べる環境づくり(学びの集団・人間関係づくり)を進めることは、仲間と意見を出し合い協働的にものごとを解決していこうとする行動の基礎になると考え、ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを取り入れた「すわまるタイム」と名付けた活動を、5年前から月に2回程度行ってきた。この活動を通して身につけた仲間とのかかわり方を学習の場にも活用することで、自他を肯定的に捉え、お互いを認め合うことのできる集団の育成を目指した。

具体的には、話し合いの場面でのルール(共感的受容を基盤とする)を徹底し、ペア学習やグループ学習(3~4人)など少人数の学習の場面を設け、場面や学習効果を意図した上で、その使い分けをしていくようにした。また、「良い話し合いのポイント」を用い、話し合いの話型を示すことで、誰もが安心して自分の考えを発信できるように仕組んでいく工夫をした。

②「対話を通して考えを深化する学びづくり」についての研究【つながる部会】

自校アンケートに見られる、人権課題など課題解決に対して主体的に関わっていこうとする思いがやや弱いという実態から、他者とつながる力、主体的な学びにつなげる力をつけていくことが必要であると考えた。そこで、受容的な人間関係を育成するための支援を工夫すること、学び合いの中で「自分が受け入れられている」「共に学び合う仲間だ」

と実感できる雰囲気をつくることをねらった。その上で、自分事として「語る」「学び合う」学習活動の場を設定し、いろいろな答えが出せる課題や、いろいろな道筋で解決していくことができる課題を授業に取り入れた。また、機会を見つけて「まちがいから学ぶ（生徒のまちがい、教師のまちがい）」場面を設けた。その際、生徒がマイナス思考にならないよう配慮し、皆の学びにつながっていることを示すようにした。他とのかかわりの中で、自分の考えを発信していくことへの意義を見出させる授業展開を工夫した。

③「学びを生活・生き方にひろげる学びの場づくり」についての研究【ひろげる部会】

生徒が、他との交流を通して自分の見方や考え方を広げること、自分から主体的に考え、ものごとに取り組めるようになることを目指すためには、日頃から自己決定・選択の場をつくっていくことが大切であると考えた。話し合い活動が日常化していることや、話し合い活動のルールが生かされ、相手の話を集中して聞こうとする姿勢が身についていることを基盤とし、「いろいろな考えがあっていい」と思えることで、自分の良さをのびしたり、自信をもって自分の考えを伝えたりすることができる場面を設定することや、自己選択・決定の場を学習の中に設定することを目指した。具体的には、他との交流を促す活動や、考えを広げる発問や話し合いの場面を工夫すること、他者の参考となることながら自分の学習に生かせる場面をつくること、お互いの考えやふりかえりを班や全体で共有できる場面を設定することに取り組んだ。また、「自分が考えを述べることがみんなの学びの役に立つ」という感覚を育てるために、どんな考えも否定せず受け入れ、考えの幅をひろげながらよりよい答えを目指す「ひろげるタイム」を授業の中に設定し、思考力・発信力と、自己有用感の向上を図った。

4. 検証・評価・改善・普及

①検証・評価・改善について

検証・評価にあたっては、本校で実施している「人権と仲間に関するアンケート」「自分自身についてのアンケート」を用い、本校生徒の課題として見られた、育てたい資質・能力の「技能的側面」「価値的・態度的側面」に関わる質問への肯定的回答の数値変化を分析・評価することにした。また、「自分自身に関するアンケート」から、自尊感情との関連についても分析を行うことにした。

以下の結果は、肯定的回答の割合と比較を示したものである。

質問項目	全校			1年生			2年生			3年生			
	肯定的回答			肯定的回答			肯定的回答			肯定的回答			
	R5.5	R5.12	比較	R5.5	R5.12	比較	R5.5	R5.12	比較	R5.5	R5.12	比較	
技能的側面	他の人の生き方から、すばらしいところを見つけたり、それを自分の生き方の反省にいかすことができる。	91.6	92.2	+0.7	91.8	86.4	-5.4	93.8	97.9	+4.2	91.4	95.1	+3.7
	差別的な態度を受けたり、一部の人が言った本当かどうかかわからない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる。	77.8	71.8	-6.0	77.3	60.2	-17.1	72.9	79.4	+6.5	78.1	77.7	-0.4
	他の人の気持ちを考えたり、意見に耳をかたむけたり、逆に自分の考えを相手に伝えたりできる。	92.8	94.8	+2.0	88.2	92.2	+4.1	93.8	97.9	+4.2	95.2	96.1	+0.9
	学校生活での問題や課題を見つけたり、それを仲間と協力して少しでもよくしようとするには、進んで参加できる。	93.4	93.5	+0.1	91.8	88.3	-3.5	91.7	97.9	+6.3	94.3	96.1	+1.8
価値的・態度的側面	自分の命も他の人の命もかけがえのないものとして大切にしようとしている。	98.1	98.7	+0.6	98.2	100.0	+1.8	96.9	97.9	+1.1	98.1	98.1	-0.0
	多くの人との出会いを大切にし、そこからいろいろな生き方を学んで、それを自分の生き方に活かそうとしている。	95.0	96.8	+1.8	94.5	98.1	+3.5	99.0	96.9	-2.1	95.2	96.1	+0.9
	今も残っているさまざまな人権問題に関心をもち、解決しようとしている。	80.3	80.9	+0.6	84.5	79.6	-4.9	85.4	85.6	+0.2	78.1	81.6	+3.5
	自分の良さや気に入っているところをいくつかあげることができ、それを大事にしたり伸ばしたりしようとしている。	81.6	85.4	+3.9	80.9	83.5	+2.6	85.4	90.7	+5.3	81.9	86.4	+4.5
自尊感情に関すること・他者との関わりに関すること	相手の個性や良さを認めたり、自分の思いと同じように相手の考えや希望も考えて行動しようとしている。	95.6	97.1	+1.5	96.4	97.1	+0.7	99.0	99.0	+0.0	95.2	97.1	+1.8
	今の自分が好きだ。	67.5	77.7	+10.2	69.1	75.7	+6.6	76.0	83.5	+7.5	66.7	78.6	+12.0
	自分にはよいところがある。	74.7	79.0	+4.3	77.3	77.7	+0.4	77.1	85.6	+8.5	73.3	79.6	+6.3
	自分は誰かの役に立つことがある。	76.6	81.2	+4.7	73.6	80.6	+6.9	75.0	87.6	+12.6	78.1	81.6	+3.5
	自分はまわりの友だちから大切にされている。	91.9	95.1	+3.3	89.1	91.3	+2.2	95.8	97.9	+2.1	93.3	97.1	+3.8
	友だちの新たな考えや意見に出会うことは楽しい、または自分の役に立つ。	96.9	95.5	-1.4	96.4	94.2	-2.2	97.9	100.0	+2.1	97.1	96.1	-1.0
	学校で学ぶことは、自分たちの生活と結びついていると思う。	95.0	96.8	+1.8	96.4	96.1	-0.2	91.7	99.0	+7.3	94.3	97.1	+2.8
学校で学んだことや身につけた力は、自分のこれからの生活に役立つと思う。	93.2	95.8	+2.6	91.8	97.1	+5.2	91.7	96.9	+5.2	93.3	95.1	+1.8	
みんなで力を合わせて、課題や問題を解決したり目標を達成したりしていくことは楽しい。	94.1	95.1	+1.1	95.5	95.1	-0.3	94.8	94.8	+0.1	94.1	94.1	+0.1	

アンケート結果において、2・3年生はほとんどの項目で数値が上昇した。また、「最も肯定的な回答」においても、ほとんどの項目で数値の上昇が見られた。特に2年生では、本校生徒の最も大きな課題であった「差別的な態度を受けたり、一部の人が言った本当かどうかかわからない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる」の項目において、6.5ポイントの上昇が見られた。また、「今の自分が好きだ」「自分にはよいところがある」「自分は誰かの役に立つことがある」という、自己肯定感や自己有用感につながる項目で、全体的に数値が大きく上昇した。2年生では「自分は誰かの役に立つことがある」という項目で12.6ポイント増加し、自己有用感の高まりが見て取れた。

3年生においては、課題として表れていた自己肯定感の低さについても、「今の自分が好きだ」という項目で12ポイントの上昇が見られるなど、取り組みの成果が表れた。これらは、3つの部会の取組が相互によいかかわりとなった結果であると考えられる。特に、どの部会でも共通して取り組んだ、受容的・共感的人間関係のもとに学習を進めるという基盤ができてきていることも、その要因と考えられる。

一方で、1年生については、数値が下がった項目が見られた。特に、「差別的な態度を

受けたり、一部の人たちが言った本当かどうかわからない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる」という項目では、17.1 ポイントと大きくポイントが下がった。これは、自己を客観的に見ることができるようになってきたことや、「他者受容」の関係づくりが、遠慮を生んだり自身の思いを抑え込んだりすることにつながっている可能性が考えられることから、他者との関係性が変化してきたことの表れであると考ええる。

今後、取り組みを継続するとともに、教育相談などを活用しながら個へのはたらきかけを行ったり、要因の分析を行ったりして成果につなげていきたい。

②普及について

11月に開催した米子市人権教育研究発表会において、市内中学校教員をはじめとし、他校種教員、地域への普及・啓発を図ることができた。今後は、学校や県のホームページを活用し、本研究に係る取り組みについて情報発信を適宜行う。

③委託期間終了後の取組

人権教育15年プランに基づいた実践や成果を、中学校区人権教育研究会において校区全教職員に周知し、共通理解のもと系統的な取組として継続する。

5. 人権教育に係る年間指導計画

令和5年度 第1学年 人権教育年間指導計画 米子市立立上中学校

テーマ	仲間づくり 多様な仲間とともに一人ひとりの力が発揮できる学校づくり
めざす姿	(1) 自分の個性を見極め、余を持ち、それを発揮するために努力できる生徒 (2) 多様な人々と豊かにつながり、共に生きようとする生徒 (3) 「人権を尊重する社会」をつくろうとする生徒
学年の目標	(1) 基本的な生活習慣の確立を図り、その場に応じた適切な行動ができる自主的・主体的な生徒を育てる。 (2) 学習態度、生活態度を整え、心を落ち着けて学習や生活に取り組み生徒を育てる。 (3) 集団の一員として、時と場に応じた適切な行動ができ、ルールや規律が守れる生徒を育てる。 (4) 自己を尊重し、関わり合いを大切にしながら、支えあめあうことができる生徒を育てる。

月	領域	単元	主題等	習得・能力	資料・教材等	めらい	学習内容
4	総合	2	支え合う学校づくり (学びあひまき)	技能5 6 7	学年主任の講話	一人ひとりの思いや思いが寄り合える人間関係を構築する。 ・思いに恥め、関わり合って高めあおうとする意欲を養う。	・それぞれの思いを語り合い、互いに理解を深める。 ・個人目標、学年目標づくりにつながるための想いを共有する。
	学活総合	1	公正・公平	知識2 技能7	特別支援学級・特別支援担任の講話	・写別文読字版(まがなみ字版・既成字版)や漢字検定数字や文字を写している生徒に別し、正しい理解と認識を深める。	・一人ひとりの個性があり違いがあることに気付かせる。 ・特別支援学級や特別支援担任の役割を理解させる。 ・特別支援学級担任にどのような配慮や接するべきか考えさせる。
5	総合	1	人権の尊重	知識5 技能4	実例の発見	・自分の普段の生活を振り返り、誰かが喜ぶに喜ぶために、自分ができることを考えるときは、差別を減らそうと考える。	・自分の長短などによって差別を仕渡していないかを考えさせる。 ・誰もが幸せに暮らせるために、自分ができることを考える。
6	総合	2	ユニバーサルデザインの考え	知識2 技能5 技能4 7	人権教育講演会	・ユニバーサルデザインについて考えたり、体験を通して、身近なところにも多くの人権を尊重の考えが込められていることを知り、すべての人が楽しく社会の一員として暮らせる社会を目指そうとする意欲を養う。	・ユニバーサルデザインの基本的な考え方や意図を理解させることを通じて、身近にあるユニバーサルデザインを体験することを通して、誰にとっても暮らしやすい社会について考えていこうとする意欲を持たせる。
	総合	1	言葉のよみかき	知識5 技能4	作文道場よみかき 「みんなの気持ち」	・自分たちが使っている言葉は、相手を気遣うたり傷つけたりすることをおぼえる。 ・誰かが誰かに対する差別や偏見に気づかせ、人権を尊重する意欲を養う。	・自分の口で使っている言葉や態度に、不慣れた言葉がないか振り返り、人との関わり方について考える。 ・「思いやり」という言葉は、誰かがいる人みんなを指す。差別や偏見のない言葉を探そうとする。
	道徳	1	いじめを防止しよう	知識2 技能4	道徳 「友の涙」	・差別や偏見のない社会を築いていこうとする意欲を養う。	・「思いやり」という言葉は、誰かがいる人みんなを指す。差別や偏見のない言葉を探そうとする。
7	総合	1	誰かが困る	技能5 技能7	紙芝居ハンドブック G.T.探検	・人の様々な立場を理解し、正しい方法やコミュニケーションをとろうとする態度を育てる。	・G.T.をまねき、丁寧の必要性や使い方を学ぶ。
	総合	1	情報モラル	知識1 技能1	DVD 「ネット利用と個人情報」 「SNSとネットのルール」	・SNSやメールの匿名性、匿名性や責任の不明確さの危険性や問題が潜んでいることを知り、自らを律し、適切に利用しようとする態度を育てる。	・SNSやメールの利用の際に相手や第三者、自分が知らぬ間に誰かに知られることについて考えさせる。
9	総合	2	人権問題を考える	技能4	作業発表会	・偏見を減らし、自分自身を振り返り、互いの人権を尊重しようとする意欲を持たせる。 ・誰かの困りごとや、人と豊かにつながり、共に生きようとする意欲を育てる。	・誰かの生活を送るために、人と豊かにつながり、共に生きようとする意欲を持たせる。
11	総合	1	身近な課題を考える	技能4 7 技能5 7	ふつうって?	・日常の生活や学習を振り返り、互いの人権を尊重しようとする意欲を育てる。 ・自分の思いを伝えるとともに、相手の思いを聞き、支えあひまき合おうとする意欲を育てる。	・日常を振り返り、人権を尊重することの重要性や必要性について考えさせる。 ・思いを語り、助くことを通じて、自分の権利を振り返って考える。
12	総合	1	身のまわりの不平等に立ち向かう	技能2 4 5	人権学習づくり	・身のまわりの不平等を下しようとする意欲を育てる。	・これまで学んできたこと、考えたことを振り返りにて発表。
1	道徳	1	生命尊重	知識2 技能2 技能2	道徳 最後の想ひもの	・命ある生と死のありかたについて考えさせ、人を大切に生きていこうとする心構えを育てる。	・普段の生活や自分の身のまわりを振り返り、生命の尊厳について自分のこととして考えさせる。
2	総合	1	いろいろな人権問題について考える	知識5 技能4	人権学習づくり	・様々な権利について考え語り、これら権利が守られないことが差別であることを知り、	・すこぶくを育て、自分たちが持っている様々な権利を知り、それらの権利について話し合う。
3	総合	1	支え合う学校	技能5 6 7	人権学習意識調査アンケート	・1年間の学習を振り返り、人権問題に対する問題として真剣に取り組めたかどうか、また人権に関心することができたかどうかを振り返り、今後の学習に生かしていく意欲を育てる。	

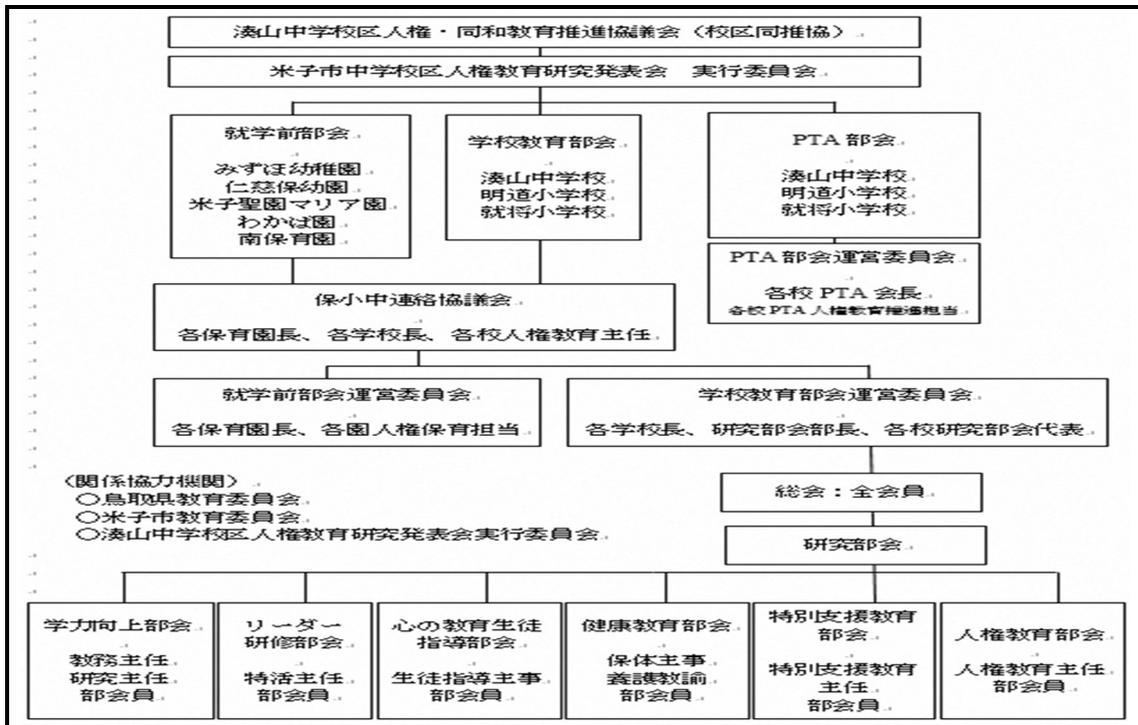
テーマ	尊重し合う「互い」に受け合える関係づくり
めざす姿	(1) 自分の責任を見極め、余を持ち、それを実現するために努力できる生徒 (2) 「人権を尊重する社会」をつくらうとする生徒 (3) 多様な人々と豊かにつながり、共に生きようとする生徒
目標	(1) お互いのちがいを認め合い、誰もが安心・安全にすくせる人を関係づくりをすすめる。 (2) お互いの学び権利を尊重し、学習活動にしっかり取り組める環境をつくる。 (3) 基本的な生涯学習の意識を固め、習得を尊重する礼儀やマナーを身につけさせる。 (4) 学習を通じて、1体常に考え、判断し実行する力を育成する。

月	領域	単元	主題下	学習・教材	資料・教材下	力	学習内容
4	総合	2	支え合う学校づくり (学びびらき)	板書5 6 7	DVD 「涙と笑いのハッピークラス」	一人ひとりの違いや思いが作り合える人間関係を構築する。 ・互いに認め、共働き合って高めあおうとする意識を養う。	・それぞれの思いを語り合い、互いに理解を深める。 ・鑑入目標、学習目標づくりにつながるための想いを共有する。
	学活 総合	1	公土・公平	知識2 技能7	特別支援学級・障害学級の学び	・特別支援学級(まがなみ学級・既内学級)や遠隔指導数字で学習している生徒に対し、正しい理解と認識を深める。	・一人ひとり個性があり違いがあることに気付かせる。 ・特別支援学級や校内学習の需要を理解させる。 ・特別支援学級単位にどのような態度で接するべきか考えさせる。
6	総合	2	ユニバーサルデザインの考え	知識2 技能5 態度4 7	人権教育講演会	・ユニバーサルデザインについて考えたり、体験をしながらすることを通して、身近なところにも多くの人権意識の考えが込められていることを知り、すべての人が豊しく社会の一員として尊重される社会を「描こう」とする意識を養う。	・ユニバーサルデザインの基本的な考え方や理念を知り、身近にあるユニバーサルデザインを体験することを通して、強固に自分自身も同じくやさしい社会について考えていこうとする意識を持たせる。
7	道徳	1	まごころにほじれ礼儀	知識1 態度1	道徳 「許せないよ」	・語句を聞き、自分自身を振り返り、互いの人権を尊重しようという意識を持たせる。 ・両方の立場から、人と豊かにつながるために大切なことを考えさせる。	・「見えぬ相手とのコミュニケーションにおける礼儀の必要」に気づかせる。 ・メールにおける適切なメールについて考えさせる。
9	総合	2	人権門限を考える	板書4	中倉校長さん講演会	・語句を聞き、自分自身を振り返り、互いの人権を尊重しようという意識を持たせる。 ・両方の立場から、人と豊かにつながるために大切なことを考えさせる。	・豊かな生活を営むためには、人と豊かにつながり、温かい心を持ち、行動することが大切であることに気づかせる。
11	総合	1	ともに生きる	板書1 4	「ひょうかん高岡」	・違いを認め合い、お互いを尊重して共に生きる社会を創出しようとする意識を育てる。 ・生活の中にある差別や不平等に「会ったことよりよい解決方法を身につける。	・誰もが幸せに暮らせる社会の実現に向けて必要なことや大切なことを考える。
12	総合	1	身のまわりの不平等に まごころを	知識2 4 5 態度2 4 5	人権研究づくり	・身の回りの不平等を下していることとする意識を育てる。	・これまでに学んだこと、考えたことなどを整理して発表する。
1	総合	1	不合理的な差別	知識5 技能4 態度4	ある出来事	・不合理的な差別を正しく説明し、差別を不合理的なものとしてとらえ、その解消に向けての意識を持たせる。	・不合理的な差別が不合理的なものであることを学び、現在も残っていることを知り、差別は自分たちの問題であることを認識させる。
2	総合	1	いろいろな人権課題について考える	知識5 技能4	世界人権宣言を学ぶ	・様々な事例について考えさせることを通じて、これらの権利が守られないことが差別であることを気付かせる。	・すぐるくを述べて、自分たちが持っている様々な権利を知り、それらの権利について話し合う。
3	総合	1	支え合う仲間	知識5 6 7	人権学習を振り返るアンケート	・1年間の学習を振り返り、人権関係に目下の問題として深刻に取り組まなければならないことがあったかを振り返らせ、今後の生活に生かしていく意思を持たせる。	

テーマ	幸せな生き方「だれしもが幸せになるために、自分にできることを考える。」
めざす姿	(1) 自分の条件を見極め、余や目標の実現に向かって前向きに努力できる生徒 (2) 社会の一員としての自覚を持ち、「人権を尊重する社会」をつくらうとする生徒 (3) 多様な人々と豊かにつながり、共に生きようとする生徒
目標	(1) お互いの違いを認め合い、誰もが安心・安全に学び育つ仲間づくり・人間関係づくりを築める。 (2) お互いの学び権利を尊重し合い、学習活動にしっかりと取り組める環境をつくる。 (3) 基本的な生涯学習の意識を固め、場に応じた適切な発言ができる、自主・自律した生徒の育成に努める。 (4) 学校生活や学習の中で、自分や集団をよりよくするために、「倫理的に考え、判断し、実行する力」を育成する。

月	領域	単元	主題等	学習・教材	資料・教材等	方	学習内容
4	総合	2	支え合う学校づくり (学びの広がり)	授業5/6/7	DVD 「b級 犯の成立」	一人ひとりの違いや思いが作り合える人間関係を構築する。 ・互いに認め、畏れあがり合っている意識を養う。	・それぞれの思いを語り合い、互いに理解を深める。 ・鑑入目標、学習目標づくりにつながるための想いを共有する。
	学活 総合	1	公立・公平	知識2 態度7	特別支援学校・障害 学校担任の寄	・特別支援学校(まごなみ学校・院内学校)や遠征指導 で学んでいる生徒に対し、正しい理解と認識を深める。	・一人ひとりの個性があり違いがあることに気付かせる。 ・特別支援学校や特別学級の意義を理解させる。 ・特別支援学校担任にどのような指導がなされているか を伝えさせる。
5	総合	1	みんなに優しい世の中・UDの社会	授業6 態度7	心のバリアフリー ノート	・自分と異なる条件を持つ多様な他者とコミュニケーションをとる力を養い、すべての人が楽しめる関係 や痛みを認識し共感する力を培う。	・人はみんな違うという認識の下、相手に寄り添う こと、みんなが優しい世の中を作っていくという ことに気付かせる。
6	総合	2	ユニバーサルデザインの考え	知識2 態度5 態度4/7	人権教育講演会	・ユニバ・サザンデザインについて考えたり、体験をし たりすることを通して、身近なところにも多くの人権 尊重の考えが込められていることを知り、すべての人が 楽しく社会の一員として育まされる社会を目指そうと する意識を育てる。	・ユニバ・サザンデザインの基本的な考え方や意義を 知り、身近にあるユニバーサルデザインを体験する ことを通して、身近なところでも多様な人々を 支えること、誰にとっても暮らしやすい社会について 考えていこうとする意識を持たせる。
7	総合	1	情報モラル	知識1 態度1	「アキラのケータイ」 元とび	・SNSやメールの安さや便利さの陰に隠れた危険 が潜んでいることに気づかせ、自らを律し、適切に 利用しようとする態度を育てる。	・SNSやメールの利用に際しては利便性や利点や、 自分がそれらの利用に直面した際にとりか るべきことを考える。
9	総合	2	人権問題を考える	授業4	中身授業さん研究会	・問題を避け、自分自身を振り返り、互いの人権を尊 重しようという気持を育てる。 ・前回の学びから、人と豊かにつながるために人 間なことを考えさせる。	・豊かな生活を送るためには、人と豊かにつながり、 高い心を持ち、行動することが大切であることに 気付かせる。
11	総合	3	部落差別解消に向けて	知識4 態度1/3/4 態度4	第一島喜北見 「我が子の結婚」	・部落や地域に関わる「部落差別」の問題を通じて、 差別を自分の問題として捉えさせ、差別を解消し ていこうとする意識を育てる。	・差別の歴史や背景に対する理解を深め、 差別を自分の問題として捉えさせ、差別 解消のために自分自身ができることを 考えさせる。
12	総合	1	身のまわりの不公平に立ち向かう	態度2/4/5	人権学習づくり	・身の回りの不公平を下していこうとする意識を育て る。	・これまでに学んだこと、考えなどを根拠に して表す。
1	保健	1	他人への差別を 考える	知識2 態度2/4 態度2	エイズと闘った少年 の記録	・HIVについて正しく知り、それとちなる偏見を なくしようとする意識を育てる。	・HIV患者への偏見をなくするために、正しい知識を 持つことの重要性を知り、自分にできることを 考えさせる。
	道徳	1	生きがい	知識2 態度2	道徳「命と向き合 う」	命の尊さについて考えさせ、生命を尊ぶ心 を育てる。	・命の尊さを大切にするための条件や 必要なことについて考えさせる。
2	総合	1	いるる人権問題 について考える	知識5 態度4	世界人権宣言について	・様々な差別について考えさせることを通じて、 これらの権利が守られないことが差別であることに 気付かせる。	・すぐろくを通じて、自分たちが持っている 様々な権利を知り、それらの権利について 話し合う。
	総合	1	支え合う仲間	授業5/6/7	人権学習意識調査 アンケート	・1年間の学習を振り返り、人権問題に対する 理解や意識の変化を確認し、今後の学習に 活かしていき、理解を深めさせる。	

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



（関係協力機関）

- 鳥取県教育委員会
（人権教育課・西部教育局）
- 米子市教育委員会
- 湊山中学校区人権教育
研究発表会実行委員会